

北九港&空 NEWS

第2号

発行 国土交通省 九州地方整備局
北九州港湾・空港整備事務所
801-0841 北九州市門司区西海岸 1-4-40
Tel : 093-321-4631 Fax : 093-322-1007

土木学会 『技術賞』 受賞 新若戸道路（若戸トンネル）

「北九州空港整備プロジェクト」以来2回目

洞海湾を挟んで若松区響灘地域と戸畑側を繋ぐ新たなアクセス道路として、昨年9月15日に「新若戸道路」が開通しました。

響灘工業団地やコンテナターミナルから発生する物流の効率化と若戸大橋や市街地の混雑緩和等を目的に約13年をかけて整備が進められました。

現在では若戸大橋の交通量を分担し、渋滞はほぼなくなっている状況です。



【渋滞する以前の若戸大橋】

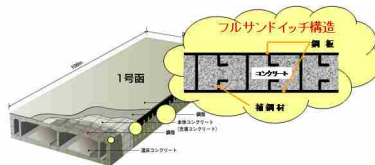
九州初の沈埋トンネル

橋梁タイプの若戸大橋を補完するために異なるタイプであるトンネルが、また総延長が短い沈埋構造が選択され、自動車専用道路としては九州初の沈埋トンネルとなりました。

沈埋構造は陸上等で複数に分割して製作された1函あたり最大約110mの沈埋函を海底に据え付けながら接続していくものです。

新技術の積極的採用

高強度で耐久性が優れる鋼板でコンクリートを挟むフルサンドイッチ構造を採用し、経済性に優れる高流動コンクリートを使用しました。



【フルサンドイッチ構造の沈埋函】

厳しい施工条件の克服

洞海湾航路の船舶航行への影響を極力抑えるために、キーエレメント工法、ワンタワーポンツーン工法を採用。

また、水平、鉛直方向とも曲線（ねじれ）であるために、箱を繋げる方法も工夫しています。

新技術・工夫を評価

数ある土木事業のなかから、新技術の採用や施工の工夫を行った新若戸道路事業に対して、土木学会から今年度の「技術賞」として表彰されました。

また、日本港湾協会からも「技術賞」を受賞しています。



2回目の受賞

土木学会技術賞は、土木技術の発展に顕著な貢献をなし、社会の発展に寄与したと認められる事業に贈られ、過去には羽田空港D滑走路整備事業や関西国際空港整備事業等も受賞していますが、当事務所では平成17年に港湾事業と連携した「北九州空港整備プロジェクト」が受賞しており、今回で2回目の受賞となります。

これからも、技術力を磨き、地域に貢献できる港湾空港整備を推進していきます。



【土木学会表彰状と盾】

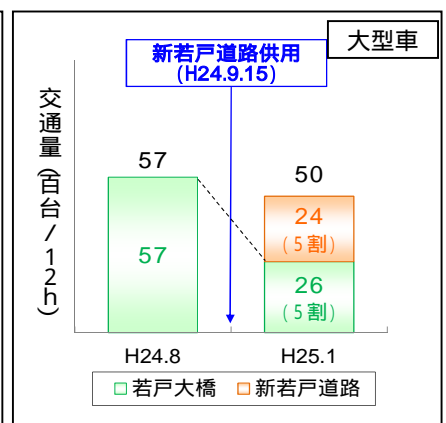
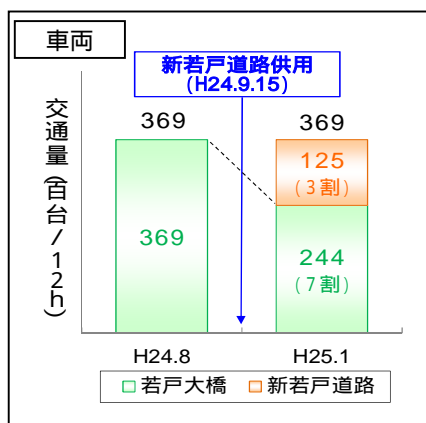
“ 渋滞解消 ” 新若戸道路の開通効果

平成24年9月15日に開通した新若戸道路の効果は、朝夕に600m程度あった「渋滞」が解消されたことに現れています。

右図のとおり、供用後には若戸大橋から新若戸道路に3割の車両が転換。

特に大型車両については半分が新若戸道路を利用しています。

今後、響灘地区の産業立地の促進などにより、さらに利用が進むものと思われます。また、若松市街地の交通量減少による、環境改善、交通安全に寄与していくことでしょう。



産業・物流の港を実感

梶山副大臣 北九州港を視察

去る7月2日、梶山国土交通副大臣が北九州港を視察しました。

今回は北九州港の海上輸送の現況を見るために、太刀浦地区と響灘地区の両コンテナターミナルと新門司地区のフェリー・物流ターミナルの視察を行いました。

視察を終えて、港湾が背後の産業としっかり結びついており、産業の競争力に繋がっていることを確認し、今後の港湾行政に活かしていく旨発言がありました。



【港湾関係者の説明を受ける
梶山副大臣（前列左）】

早期の発注を目指します

予算成立し、直轄事業本格化

平成25年度予算が5月15日に成立、本格的に北九州港・北九州空港の整備を推進します。

直轄事業としては、新門司地区にお

いて、フェリー・RORO対応の航路・泊地の増深・拡幅及び耐震強化岸壁の整備を行っており、田野浦地区では内貿ユニットロードに利用される老朽化岸壁のリニューアル工事を進めます。

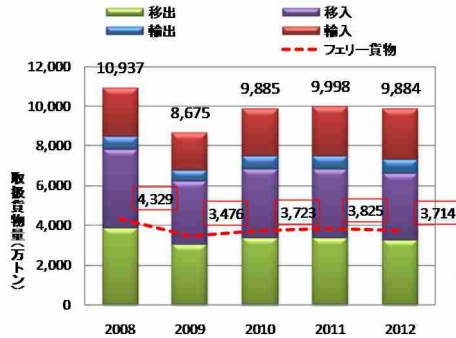
その他に、北九州港や関門航路の浚渫土砂を受け入れる新門司沖土砂処分場の受入容量拡大に向けた事業を実施（下記整備状況参照）。

また、北九州空港ではエプロン新設や台風時の越波対策の護岸高上げ工事を行います。

貨物量 微減、外貿は微増

平成24年北九州港港湾取扱貨物量
北九州港港湾統計として、取扱貨物量等が北九州市より発表されました。

海上出入貨物取扱量は前年に比べ微減9,884万ト力で、輸出入は約3%伸びたものの、国内貿易量の減少が影響しました。



【北九州港港湾取扱貨物量の推移】

コンテナ貨物取扱量は前年より1.2%減少し50.6万TEUとなりましたが、全体貨物量と同様に国際コンテナは若干増えています。輸出では「ゴム製品」、輸入では「自動車部品」が昨年に続き増加しました。

北九州港港湾統計概要（確定値）の詳細は北九州市港湾空港局HP参照。

http://www.kitaqport.or.jp/jap/data/report_ym.html

響灘地区 工業用地拡大

北九州港港湾計画の軽易な変更

平成25年4月17日に、第54回北九州市地方港湾審議会が開催され、北九州港港湾計画の軽易な変更や北九州市計画臨港地区の分区の変更指定などが審議されました。その中で、響灘東地区の再生可能エネルギーの生産施設や認証試験施設を誘致するため、土地利用計画の変更も行われました。（港湾関連用地 工業用地 19.4ha）

今回の変更により、「グリーンエネルギーポートひびき」として、風力産業等の集積を目指す響灘地区へのさらなる産業の集積が期待されます。

地方港湾審議会の詳細は、北九州市港湾空港局HP参照。

http://www.kitaqport.or.jp/jap/topics/20130502_54shingikai_houkoku.html

“ドレーン打設船 参上！”

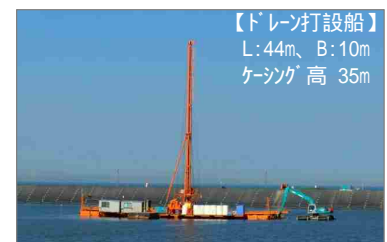
新門司沖土砂処分場の整備状況

処分場容量拡大対策の2本目の矢

平成25年6月、新門司沖土砂処分場（3工区）において、浚渫して投入された土砂の圧縮のために、ドレーン打設船1号機がお目見え。プラスチックボードドレーンという材料を使用し、地中の水を抜くもので、築堤（脱水処

理土利用）に続く、処分場延命化対策の第2弾となります。

今後、6本の柱が並んで工事は進捗していきますが、ちなみにドレーン材料の全延長は直線距離で北九州から北海道知床までに相当します。（今年度工事の総延長は約1,730km）



【ドレーン打設船】
L:44m、B:10m
ケーシング高 35m

【ドレーン打設船による施工状況】

（トピックス）

旧大連航路上屋 憩いの場所に。 趣きを変えて7/19(Fri) オープン

展示・イベントなど多目的スペース
200万人以上の観光客が訪れる門司港レトロ地区に、新たに近代遺産として歴史的価値の高い旧大連航路上屋が憩いの場としてオープンします。

旧大連航路上屋は1929年（昭和4年）に建てられた2階建てRC構造で、

戦後は米軍の使用や門司税関庁舎として利用された時期もあります。

オープニングには、豪華クルーズ船“飛鳥”も寄港して祝います。

場所は海峡ドラマシッポの向かい側です。（当事務所のすぐ近くです）

皆様も是非お立ち寄りください！



【皆様の来場を待つ旧大連航路上屋】

『編集後記』

昨年9月に開通しました新若戸道路（若戸トンネル）が、土木学会及び日本港湾協会から表彰を受けることが出来ました。事業に携わった者にとっては栄誉となりました。今後の事業推進にあたっては励みとなり、3度目の受賞を目指し頑張ります。「北九港&空 NEWS 第2号」を発売しましたので配布させていただきます。